

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	関西福祉科学大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カンサイフクシカガクダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ科目(事前指導)、インターンシップ科目(インターンシップ・事後指導)
	学部・研究科等名	健康福祉学部 健康科学科
	担当教職員名・役職	長見まき子・健康福祉学部健康科学科教授山内彰・健康福祉学部健康科学科教授福田早苗・健康福祉学部健康科学科教授松村歌子・健康福祉学部健康科学科准教授木村貴彦・健康福祉学部健康科学科准教授母袋潔・大学教務部担当課長細井博光・大学教務部職員
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	24
	受入企業等数	15
	受入企業等名	BCC株式会社関西福祉科学大学EAP研究所など
	インターンシップの分類	5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ,9.その他
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	学科特性に応じたキャリア意識の形成と具体化を目的としたインターンシップ	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等),3.その他
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	社員と合同で社員研修(接遇研修・新入社員研修)を受講。
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ先の業態に応じた業務を社員とともにを行う。具体的例として、産業界・労働安全衛生の実務者とともに作業現場の安全・衛生管理業務に随行する。また、業務の一環として安全・衛生に関するプレゼンテーションを実施する。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次・3年次(2017年度)
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	合計3単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	現実の社会組織(企業や施設、病院など)と連携した就業体験プログラムを通じて、働くことと自らのキャリアデザインの構築に主体的に取り組んでいくことを目的とした科目である。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用手法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全8回の事前指導の中で、インターンシップの目的(第1回)や受け入れ先実績からの理解(第2回)、ビジネスマナーをはじめとした社会人力(第3、6回)、外部講師の招聘による講義を行うとともに、大学等の教職員が面接を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	全8回の事後指導の中で、就業体験と学びの振り返りを実施しており、グループでの作業に基づいたプレゼンテーション資料を作成し、担当者を招いて発表会を実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	特に学科が関わる受け入れ先について、大学教員が巡回に向き、インターンシップの状況の確認と指導を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている,2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	既存の動機づけなどの心理調査や自身の取り組みへの評価をインターンシップ前・インターンシップ直後・半年後に実施し、学修意欲やキャリア意識の涵養への結びつきを検討している。

要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間程度を目安
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	例:インターンシップを4日間と事前・事後指導をそれぞれ8回で実施
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	例:関西福祉科学大学EAP研究所で計4日間のインターンシップを事前指導(8回)・事後指導(8回)とあわせて実施している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ先には毎日の評価表への記入を依頼しており、インターンシップの意義と目的に沿った指導が実施されている。コンソーシアムを利用することで効率的な運用を実現している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	インターンシップ(事前指導) http://sy.kwc.ac.jp/2016/subject_detail.php?jugyouCode=12124000 インターンシップ(インターンシップ・事後指導) http://sy.kwc.ac.jp/2016/subject_detail.php?jugyouCode=12124100
問い合わせ先	大学等名	関西福祉科学大学
	担当部署名	教務部
	担当者役職名	
	担当者氏名	細井博光
	電話番号	072-977-9549
	メールアドレス	kenko-kagaku@tamateyama.ac.jp